

第5節 沼ノ上遺跡の中世遺構と浜崎城・浜崎館跡

1. 湯川村内の中世遺跡・城館

まず、沼ノ上遺跡の周辺に存在する中世遺跡について概観しておく。湯川村では中世城館として笈川館跡・北田城跡、浜崎館跡、そして浜崎城跡など8箇所の遺跡が登録されているが、囲場整備などによる破壊を受けたものが多い。このうち、調査が実施された城館は浜崎城跡と北田城跡の2箇所である。このほかに中世遺物が出土した遺跡はほとんど認められない。

2. 13世紀代の沼ノ上遺跡

沼ノ上遺跡では1号溝跡の第3層から多量の遺物が出土した。1号溝跡は調査の結果、縄文時代の河川を利用した池ないし溜池状の遺構で、おそらく現在の湯川（湊川）に注ぐ。これに対して中世の遺物が出土した第3層は澱んだ沼状の湿地で、ほとんど水が流れない滞水層と考えられた。出土遺物のほとんどは木製品（未製品を含む）で、これに13世紀代～14世紀代の陶磁器類が共伴する。しかし、14世紀代の遺物は少なく、その大半は4層に掘り込まれた11号溝跡かもしくはその近辺からの出土であることから、本遺構の大半は13世紀代の所産と考えられる。また、1号溝跡にほぼ平行する2・3号溝跡も概期の可能性が高いと判断した。しかしながら、明確な建物跡や方形竪穴遺構などは発見されなかった。ゆえに、本遺構にともなう居住域は不明といわざるを得ない。

会津盆地内における13世紀代の代表的な遺跡としては居館の鏡ノ町遺跡A・B（塩川町教育委員会1997・2001）や北田城跡（湯川村教育委員会1984）、河湊としての性格が強い荒屋敷遺跡（福島県教育委員会2003・2004）などが認められる。これらの遺跡は河川沿いの河岸段丘上もしくは自然堤防上に立地する点でも共通する。すなわち、鏡ノ町遺跡A・Bは田付川東岸、荒屋敷遺跡は日橋川北岸、北田城跡は日橋川と阿賀川が合流する地点にそれぞれ立地する。沼ノ上遺跡も西に湯川、北に日橋川が位置し、1号溝跡ももともとは湯川に流れる支流であったと考えられる。ただし、13世紀段階では先述したとおりほぼ沼地化しており、河川としては機能していなかった所見が得られている。河川として機能していなかったということは、本遺跡の出土遺物の大半がこの近辺で消費されたものであることを意味しており、この近辺に居住域がある可能性が高いと推測される。いずれにしても阿賀川と日橋川の合流地点には少なくとも12世紀～13世紀にかけて多くの人々が盤踞していたことは明らかであろう。

3. 14世紀代の沼ノ上遺跡と浜崎城・浜崎館跡

まず、沼ノ上遺跡で確認した14世紀代の区画溝（6・8・11号溝跡）について整理しておく。これらは6・8号溝跡の方形区画溝と排水溝の11号溝跡からなり、この11号溝跡は沼池状の湿地となっていた1号溝跡のℓ3上面から掘り込まれていた。ゆえに、ℓ3の年代である13世紀代よりは新しい。また、6・8号溝跡は南東コーナーのみの確認でその規模は不明であるが、調査区の南側や東側に同様な遺構がないことからすると、調査区外の北側や西側に延長するのは明らかである。

いくなれば、1号溝跡で区切られた北側一帯に区画溝があることになり、今回確認した区画溝は沼ノ上遺跡の北側に近接する浜崎館跡の一部と考えることも可能となろう。

現在遺跡台帳に登録されている浜崎館跡は、沼ノ上遺跡の北東約100mに位置し、浜崎城跡は浜崎館跡の東側に位置する。まず、浜崎館跡・浜崎城跡の歴史について概観する。双方の遺跡を包括したのは古文書・古記録類に浜崎館・城と双方の記載がなされているため、どちらに属するかはなお厳密な考証が必要となろう。とりあえず、ここでは年代順に記してみることとする。

①観応3（1352）年に蘆名直盛と推定される三浦若狭守が常陸国真壁を本拠とする真壁氏の代官薄氏とともに浜崎城、蜷河荘政所楯・牛沢城（筆者註：会津坂下町）と河沼郡内の城館を転戦した（『真壁文書』）。ここでの記述は「浜崎城」である。

②宝徳4（1452）年、猪苗代盛光が浜崎の館を攻め落とし、白川の結城義季の仲裁で兵を引いたという（『塔寺八幡宮長帳』）。なお、『異本塔寺長帳』によると、このときの城主は浜崎行頼刀政頼としている。ここでの記述は「はまさきのたて」である。

③享徳2（1453）年、蘆名盛詮の武将、松本筑前守らが白川の結城氏とともに猪苗代氏らが支援する松本右馬允らを攻めた際に、浜崎の館がその舞台となり、松本右馬允が自害した（『塔寺八幡宮長帳』）。ここでの記述も「はまさきのたて」である。

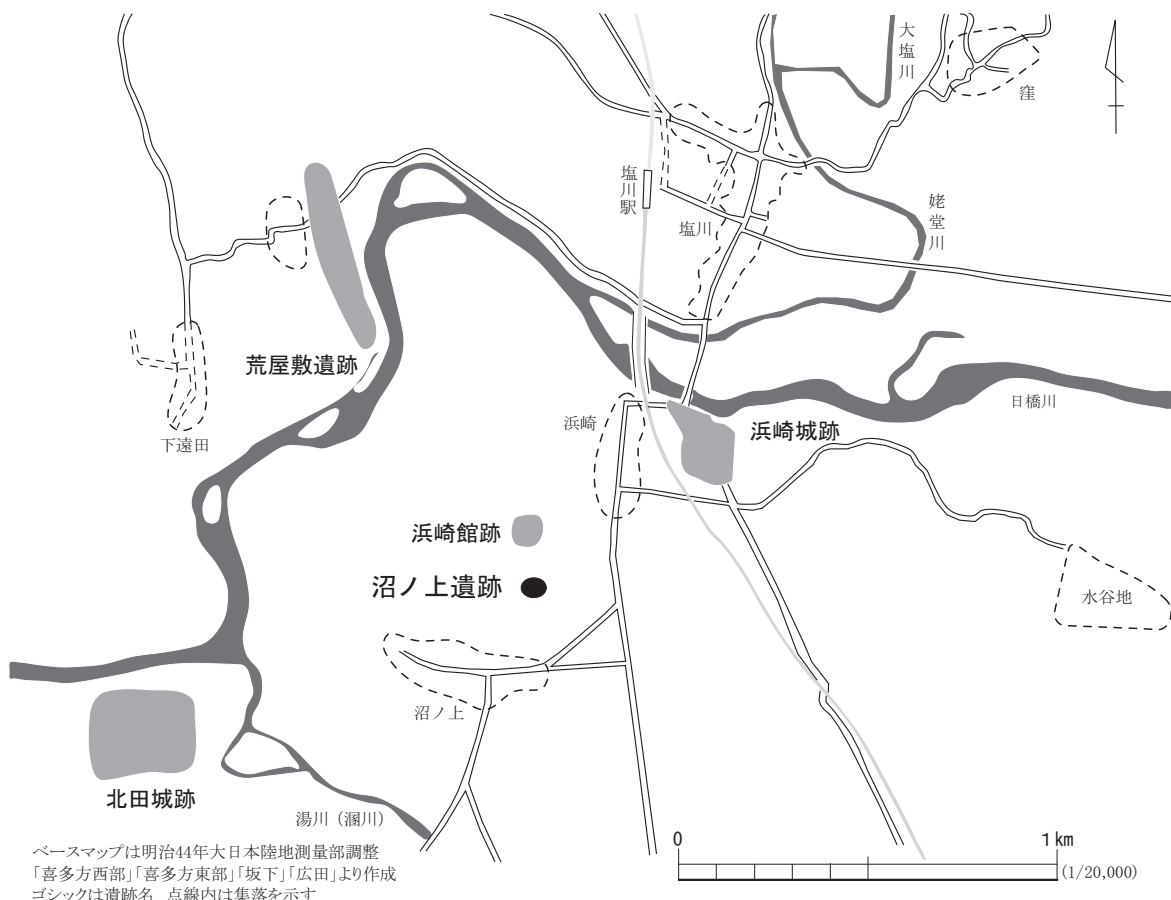


図74 沼ノ上遺跡周辺の遺跡と河川(概念図)

④天正17(1589)年、伊達政宗が片倉小十郎に「かな川(金川)、三はし(三橋)、しほ川(塩川)、べつぶ(別府)、はまさき(浜崎)」の5箇所を安堵した(括弧は筆者註)(『反町文書』『片倉小十郎宛知行宛行朱印状』)。ここでは「はまさき」のみの記載である。

以上、中世文書記載の浜崎館・城を見てきたが、①のみ「浜崎城」で、②・③は「浜崎館」である。また、13世紀代の記録は皆無で、14世紀代からの記述となる。なお、近世資料では、

⑤蒲生秀行のとき、塩川館に水害があつて、蒲生主計が浜崎館に移った。浜崎館が移るということは、すでに浜崎館が存在していたことが注記されている。同時に、浜崎館の西側に残っている遺構は天正末に片倉小十郎が建てたと記されている(『会津旧事雑考』享徳2年)。

⑥館跡 村東五十間にあり、本丸迹東西五十間南北一町四方に幅五間餘の堀を廻らし、上に高三間計の土居あり、二丸迹この西に並び、南に外郭の跡あり、北は日橋川を引いて要害とす、(中略)元和中一国一城の制になりしとき毀つべかりしを蒲生氏茶屋と名け、暫しが程遣しかが今に至て其形他の館に異なり(『新編会津風土記』卷之八十八)。ここには⑤の大半が記載されており、現在の浜崎城と浜崎館との関係はここに由来すると考えられる。

次に、この2者の調査結果について述べる。

浜崎城跡は縄張り調査と一部試掘調査が実施されている。縄張り調査では北側の日橋川を除く三方に堀と土塁をめぐらす本丸と呼ばれる主郭、西側に二の丸と呼ばれる郭、さらにその西側ないし東側にも郭の存在が推定されている。また、主郭の東側一帯の試掘調査では馬出とそれに先行する東郭の堀が確認されたが、中世の出土資料は皆無であった。これは、⑥の事実を証明しているとも考えられる。

浜崎館跡は、沼ノ上遺跡の北東約100mに位置する。発掘調査は実施されていないので、現地調査の観察結果について述べる。館跡は約70m四方の主郭部分のみの確認で、館の南東側に土塁が残存する。その大半は圃場整備で削平されたと考えられるが、圃場整備前の写真を見る限り、主郭の周囲に堀がめぐると思われる。地籍図にも堀と思われる地割が観察されるが、今回の調査区にかかる部分での地割や遺構などは明確に観察できない。

浜崎城跡・浜崎館跡の瀬川を挟んだ対岸には北田城跡が位置する。本城は三浦一族の佐原義連の次男広盛がこの地を安堵されて北田氏を名乗ったとされ、その本拠地とされる。応永16(1409)年に蘆名氏によって滅亡した(『塔寺八幡宮長帳』)。地籍図などから方形の主郭部分と、西側におそらくは自然の河や沢を一部利用した副郭から構成される居館と考えられる。なお、主郭には土塁が残存していた。この主郭の大半と副郭の一部の調査を実施した(湯川村教育委員会1984)。結果、耕地整理で大きく改変を受けていたものの、井戸や建物の小穴などを確認し、白磁や青磁、須恵器系中世陶器が出土した。青磁は太宰府分類のⅡ類(鎬連弁文)であり、13世紀代の資料となる。須恵器系中世陶器の鉢も吉岡編年Ⅲ期前後と青磁同様の年代観を示す。ただし、図示されていない出土遺物のなかには青磁碗のⅠ類や白磁の森田CないしD群(森田1982)といった資料があることから、その終末は少なくとも14世紀以降まで下る可能性がきわめて高い。

4. 小 結

以上、沼ノ上遺跡周辺の館跡についてこれまでの調査と文献史料を整理してみた。まず問題となるのは、古文書類に記された浜崎城・浜崎館と、現在遺跡台帳に登録されている浜崎城・浜崎館の整合性であろう。これまでは、遺跡名でいう浜崎城が、中世文書に登場する「浜崎城・館」と考えられてきた。このため浜崎館に比定される記述は皆無であるか、あっても疑問視されるものである。また、両者を峻別できるような考古学的所見もこれまでのところ得られていない。現状では双方を含んだ「浜崎城・館」と呼称した方が妥当であろう。

この「浜崎城・館」の文献における初見は14世紀中頃で、その頃にはすでに城館として機能していたことは文献などでも明らかである。となれば、沼ノ上遺跡で確認した14世紀代の区画溝は、前述した通り、「浜崎城・館」の一部であった可能性を有する。ただし、本遺跡からは15世紀・16世紀代の遺物の出土はなく、その拠点域が移動したとも考えられるが、推測の域を出ない。また、15世紀初頭に滅亡されるまで「浜崎城・館」と同時期に存在していた北田城跡との関連性も追究できなかった。すべては今後の調査で明らかにされよう。(管 野)

引用・参考文献（五十音順）

- 会津資料保存会 1973「会津旧事雑考」『会津資料叢書』下巻、歴史図書社
- 会津高田町 1997『会津高田町史』2
- 会津坂下町 1976「重文塔寺八幡宮長帳」『会津坂下町史』Ⅱ
- 会津坂下町教育委員会 1986『勝負沢遺跡発掘調査報告』
- 会津坂下町教育委員会 1986『若宮地区分布調査報告書』（Ⅱ）
- 会津坂下町教育委員会 1988『館ノ内遺跡 細田遺跡』
- 会津坂下町教育委員会 1989『中丸遺跡 鬼渡りA遺跡』
- 会津坂下町教育委員会 1990「樋渡台畑遺跡」『若宮地区発掘調査報告書』
- 会津坂下町教育委員会 1992a「館ノ内遺跡」『若宮地区遺跡発掘調査報告書』
- 会津坂下町教育委員会 1992b「高畑遺跡」『阿賀川Ⅱ期地区遺跡発掘調査報告書』
- 会津坂下町教育委員会 1995「大村新田遺跡」『会津宮川地区遺跡調査報告書』
- 会津坂下町教育委員会 1997『大村新田遺跡』
- 会津坂下町教育委員会 2000『出崎山遺跡』
- 会津坂下町教育委員会 2003a「出崎山遺跡」「宇内古屋敷遺跡」「勝負沢遺跡」『県営かんがい排水事業発掘調査報告書』
- 会津坂下町教育委員会 2003b『中平遺跡』
- 会津坂下町教育委員会 2004『薬王寺遺跡』
- 会津坂下町教育委員会 2005『陣が峯城跡』
- 会津坂下町教育委員会 2007『吉原遺跡』
- 会津武家屋敷・会津歴史資料館 1984『五本松遺跡』
- 会津美里町教育委員会 2007『沼ノ上遺跡』

- 会津美里町教育委員会 2007『油田遺跡』
- 会津若松市教育委員会 1983『墓料遺跡1982年度（第二次）発掘調査報告書』
- 会津若松市教育委員会 1984『墓料遺跡1980年度発掘調査報告書』
- 会津若松市教育委員会 1986『若松城三ノ丸跡発掘調査報告書』
- 会津若松市教育委員会 1989『門田条里制跡発掘調査報告書』
- 会津若松市教育委員会 1993 a『門田条里制跡発掘調査報告書』 2
- 会津若松市教育委員会 1993 b『門田条里制跡発掘調査報告書』 3
- 会津若松市教育委員会 1994a『会津 大戸窯（遺物編）』
- 会津若松市教育委員会 1994b『若松城下 城東町遺跡発掘調査報告書』
- 会津若松市教育委員会 1994c『門田条里制跡発掘調査報告書』 4
- 会津若松市教育委員会 1995a『門田条里制跡発掘調査報告書』 5
- 会津若松市教育委員会 1995b『門田条里制跡発掘調査報告書』 6
- 会津若松市教育委員会 1999a『矢玉遺跡』
- 会津若松市教育委員会 1999b『史跡 若松城跡』Ⅲ
- 会津若松市教育委員会 2001『上雨屋遺跡発掘調査報告書』
- 会津若松市教育委員会 2002『墓料遺跡範囲確認調査報告書』
- 会津若松市教育委員会 2004『赤井遺跡』
- 会津若松市教育委員会 2006『金屋遺跡 郡山遺跡Ⅱ』
- 会津若松市教育委員会 2007『戸波遺跡 嶋村館跡』
- 会津若松市 2000『会津若松市史』14
- 会津若松市 2003『会津若松市史』16
- 会津若松市 2004『会津若松市史』3
- 会津若松市 2005『会津若松市史』2
- 会津若松市 2007『会津若松市史』1
- 河東町教育委員会 1979a『河東町史』上巻
- 河東町教育委員会 1979b『南原遺跡』
- 川俣町教育委員会 2002『河股城跡発掘調査報告書』
- 金沢市埋蔵文化財センター 2004『堅田B遺跡Ⅱ（本文・遺物編）』
- 金山町教育委員会 1977『岩代国宮崎遺跡』
- 喜多方市教育委員会 1997「塚田A・B遺跡」「村前遺跡」「綾金・長尾地区遺跡発掘調査報告書」Ⅰ
- 喜多方市史編纂委員会 1995『喜多方市史4 考古・古代・中世 資料編Ⅰ』
- 久保田鉄工株式会社 1987『URBAN KUBOTA』26
- 郡山市教育委員会 1985「艮耕地A遺跡」『郡山東部』Ⅴ
- 郡山市教育委員会 1993『安子島城跡』
- 郡山市教育委員会 1998『荒井猫田遺跡－第1次～第6次発掘調査報告』
- 郡山市教育委員会 1999『荒井猫田遺跡－第7次～第10次発掘調査報告』
- 郡山市教育委員会 2000『荒井猫田遺跡－第11次発掘調査報告』
- 郡山市教育委員会 2001『荒井猫田遺跡－第12・13次発掘調査報告』
- 郡山市教育委員会 2002『荒井猫田遺跡－第14次発掘調査報告』

郡山市教育委員会 2003『荒井猫田遺跡－第15次発掘調査報告』

郡山市教育委員会 2006『荒井猫田遺跡－第16次発掘調査報告』

小滝利意 1960『今和泉』

小滝利意 1977『墓料』

佐助ヶ谷遺跡発掘調査団 1993『佐助ヶ谷遺跡発掘調査報告書』

寒川 旭 1987「慶長6年（1611年）会津地震における地変と地震断層」『地震』vol 40

塩川町教育委員会 1978『上ノ台遺跡発掘調査概報』

塩川町教育委員会 1994『鶴塚遺跡発掘調査報告書』

塩川町教育委員会 1997『鏡ノ町遺跡A』

塩川町教育委員会 1999『古屋敷遺跡』

塩川町教育委員会 2001『鏡ノ町遺跡B』

塩川町教育委員会 2002『荒屋敷遺跡』

塩川町教育委員会 2004『内屋敷遺跡』

庄子貞雄・安藤豊 1987「会津盆地の土壌」『URBAN KUBOTA』26 久保田鉄工株式会社

鈴木三郎 1984「縄文時代の会津湖について」『喜多方市史 年報』3, 喜多方市史編纂準備委員会

鈴木隆介 1998『建設技術者のための地形図読入門 第2巻低地』古今書院

鈴木敬治 他 1972「若松地域の地質」『福島県地質調査報告』福島県

鈴木敬治 他 1973「喜多方地域の地質」『福島県地質調査報告』福島県

太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡』XV

平山光衛 1969『会津盆地地形分類図説明書』東北農政局計画部

福島県 1912『会津漆器』

福島県教育委員会 1983「御山千軒遺跡」『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告』VI

福島県教育委員会 1988『福島県の中世城館跡』

福島県教育委員会 1988「一ノ堰A・B遺跡」『国営会津農業水利事業関連遺跡発掘調査報告』VI

福島県教育委員会 1989「大村新田遺跡」『国営会津農業水利事業関連遺跡発掘調査報告』VII

福島県教育委員会 1990a「上吉田遺跡」『東北横断自動車道遺跡調査報告』9

福島県教育委員会 1990b「能登遺跡」『東北横断自動車道遺跡調査報告』10

福島県教育委員会 1990c「門田条里制跡（中野地区）」『国営会津農業水利事業関連遺跡発掘調査報告』IX

福島県教育委員会 1991a「屋敷遺跡」『東北横断自動車道遺跡調査報告』12

福島県教育委員会 1991b「和泉遺跡」『東北横断自動車道遺跡調査報告』13

福島県教育委員会 1992a「神指城跡」『国営会津農業水利事業関連遺跡発掘調査報告』XII

福島県教育委員会 1992b「鷺沢遺跡」『国営会津農業水利事業関連遺跡発掘調査報告』XIII

福島県教育委員会 1996a「佐平林遺跡（VI区）」『母畑地区遺跡発掘調査報告』39

福島県教育委員会 1996b『福島県遺跡地図 会津地方』

福島県教育委員会 1996c「弓手原A遺跡（第1次）」『摺上川ダム遺跡発掘調査報告』I

福島県教育委員会 2002「麻生館遺跡」『会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告』1

福島県教育委員会 2003「荒屋敷遺跡」『会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告』2

福島県教育委員会 2004「荒屋敷遺跡（2次）」『会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告』3

福島県教育委員会 2005「荒屋敷遺跡（4次）」「桜町遺跡（1次）」『会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告』5

- 福島県教育委員会 2006「荒屋敷遺跡（5次）」「高堂太遺跡（下高瀬館跡を含む）」『会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告』6
- 福島県教育委員会 2007「高堂太遺跡（2次）」『会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告』7
- 福島県考古学会中近世部会 1996「かわらけ編年の再検討（その1）」『福島考古』37
- 福島県考古学会中近世部会 1997「かわらけ編年の再検討（その2）」『福島考古』38
- 中条町教育委員会 2001『下町・坊城遺跡』V
- 仲田茂司 1993「古代東国の挽物」『考古学研究』39-4
- 仲田茂司 1996「東北」『古代の木製食器』第I分冊，埋蔵文化財研究会
- 仲田茂司 1999「中世東国の漆器」『考古学研究』46-1
- 中野晴久 1995「生産地における編年について」『常滑焼と中世社会』小学館
- 長野県木祖村教育委員会 1975「木曾のお六櫛」『木祖村文化財調査報告書』第二集
- 成田寿一郎 1984『木の匠－木工の技術史』鹿島出版会
- 新潟県教育委員会 1996「水久保遺跡」『北越北線関係発掘調査報告書』
- 新潟県教育委員会 2000「大武遺跡Ⅰ（中世編）」『一般国道116号和島バイパス関係発掘調査報告書』Ⅰ
- 新潟県教育委員会 2006「住吉遺跡」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書』ⅩⅢ
- 新鶴村教育委員会 1989『木留場遺跡』
- 日本漆工協会 1984『日本漆工』会津漆器特集号
- 三島町教育委員会 1992『元屋敷遺跡』
- 水澤幸一 2007「越後の中世漆器－椀・皿を中心にして－」『新潟考古』18，新潟県考古学会
- 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』2
- 梁川町教育委員会 2005『茶白山北遺跡』
- 山都町教育委員会 1985「御前清水遺跡」『御前清水遺跡・金山遺跡』
- 山元孝広・吉岡敏和 1992『若松地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)』産総研地質調査総合センター
- 山元孝広 1995「沼沢火山における火砕流噴火の多様性：沼沢湖および水沼火砕堆積物の層序」『火山』
- 山元孝広 2003「東北日本，沼沢火山の形成史：噴出物層序，噴出年代及びマグマ噴出量の再検討」『地質調査研究報告』vol.54
- 山元孝広・吉岡敏和・牧野雅彦・住田達也 2005『喜多方地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)』産総研地質調査総合センター
- 湯川村 1994『湯川村史』3
- 湯川村教育委員会 1984『北田城跡』
- 湯川村教育委員会 1999『浜崎城跡試掘調査報告書 第1次・第2次・第3次』
- 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 四柳嘉章 1995「漆器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 四柳嘉章 2006『漆』Ⅰ・Ⅱ，ものと人間の文化史131，法政大学出版局
- 渡邊 明 1989「古代から近世にかけての会津の漆工芸」『会津の漆器』特別資料展「会津の漆器」実行委員会
- 渡邊 晶 2004『日本建築技術史の研究』中央公論美術出版社